

〔国際会議開催〕

申請者	大阪電気通信大学 情報通信工学部情報工学科 教授 古崎 晃司	2255006
国際会議名	The 24th International Semantic Web Conference (ISWC2025)	
会議ホームページ URL	https://iswc2025.semanticweb.org/	
開催期間	2025 年 11 月 2 日～2025 年 11 月 6 日	
会場名称	奈良県コンベンションセンター	
会場住所	奈良県・奈良市	
開催形式	実開催	
申請者の役割	Local Chair	

〔国際会議の概要〕

ISWC (International Semantic Web Conference) は、Web において人間と機械の双方が理解可能な意味を付与するセマンティック Web 技術に関する、世界トップレベルの国際会議である。開催地は欧州、北米、アジアの 3 地域で 1 年ごとに順次選定されており、第 24 回となる ISWC2025 は、3 回目の日本開催となった。

本会議のプログラムは、テーマごとの Workshop および Tutorial を実施するプレカンファレンス（11 月 2 日～3 日）と、Keynote 講演および各 Track の採択論文発表が行われる本会議（11 月 3 日～5 日）から構成されている。会期中は 32 か国から約 350 名（うち約 270 名が海外参加者）が一堂に会し、最新の研究成果の発表や活発な議論が行われた。

〔開催の目的・意義〕

セマンティック Web 技術は、近年急速に発展している生成 AI において重要な課題とされる「根拠の明確化」や「生成内容の解釈・意味の説明」といった、「意味を明確に扱う」ための技術を提供するものである。このため、生成 AI との相互補完的な活用が注目されており、人間と機械が扱う「意味」を明確にすることで、「人間と機械の調和の促進」にも大きく寄与することが期待されている。

ISWC は同分野におけるトップカンファレンスとして位置づけられており、最先端の研究成果が発表されるとともに、今後の研究や技術開発の方向性に関する議論が活発に行われる。そのため、国内の研究成果を海外へ発信する場として、また海外のトップレベルの研究者との交流の機会として、本分野の研究および技術開発の促進に大きく貢献することが期待される。

さらに、これまでに日本で開催された ISWC は、海外参加者からも高い評価を受けており、本分野に対する国内コミュニティの国際的な貢献度向上に寄与することも、本会議開催の目的のひとつである。

〔得られた成果・効果〕

ISWC2025 の参加者数は、当初想定していた約 250 名を大幅に上回る約 350 名となり、非常に盛況であった。国別の参加人数は、日本 84 名、ドイツ 57 名、中国 28 名、アメリカ 27 名、イタリア 24 名、オーストリア 20 名、イギリス 19 名、フランス 16 名、

ベルギー 12 名、オランダ 11 名など、ヨーロッパを中心に 32 か国から参加があった。海外からの参加者は全体の約 75% にあたる約 270 名であり、国際的な交流の場として十分な役割を果たすことができたといえる。

論文投稿数は、12 のトラックを通して計 447 件にのぼり、本会議で実施された主要トラックにおける採択数を表 1 に示す。

ISWC では、研究技術論文を対象とした Research Track に加え、データ公開など研究資源の開発を対象とした Resource Track、応用事例の開発を対象とした In-Use Track、さらに企業での取り組み事例を対象とした Industry Track が設けられており、これらに採択された論文が本会議において口頭発表された。Industry Track を除く各トラックの採択率は 20～30% 程度であり、厳選された研究成果が発表されたといえる。また、Posters & Demos では萌芽的な研究が多数発表され、分野の最新トレンドを把握する貴重な機会となった。

さらに、3 件の Keynote 講演やパネル等の企画セッションに加え、プレカンファレンスでは特定のトピックに焦点を当てた Workshop および Tutorial がそれぞれ約 10 件実施され、セマンティック Web 技術の多様な広がりを知ることができた。

また、ISWC2025 では研究発表以外の場においてもコミュニティの交流を促進するため、全参加者を対象とした懇親会に加え、学生を中心とした交流会、有志によるカラオケパーティなど、さまざまな交流の機会を設けた。これらの企画を含む会議全体の運営には多くの学生がスタッフとして協力しており、その支援により円滑な運営が実現し、参加者の満足度も高いものとなった。参加した学生にとっても、普段は接する機会の少ない海外研究者との交流を経験できる、非常に貴重な機会となった。

以上のように、ISWC2025 を日本で開催したことにより、参加者数、発表論文の数および質、さらには参加者の満足度のいずれの観点からも、非常に充実した成果を得ることができた。

本会議の開催にあたり、多大なるご支援を賜ったことに、心より感謝申し上げる。

表 1 主要トラックの投稿数および採択数

Track	投稿数	採択数	採択率
Research	177	34	20%
Resource	82	19	23%
In-Use	24	7	29%
Industry	19	15	79%
Posters	75	34	77%
Demos		24	



ISWC2025 のオープニングの様子